

# 立命電友会

## 電気事業における発電現場から 関連事業まで携わって

飯野光彦  
(昭和三十六年卒)



立命館大学を卒業して四十九年の歳月が経過し人生の最終章に入りました。入学した昭和三十三年頃は故郷の山形県酒田市から立命館大学に入学する学生は殆んどおりませんでした。JNRの急行日本海に乗って約二十三時間で京都駅に到着、チンチン電車(既に廃止、京都らしい電車で廃止は残念)で二条城前を経由して北野へ、更に嵐山電鉄に乗り換えて等持院、此処から学生生活が始まる。

### ①、学生時代を顧みて

知り合いのお世話で先輩の下宿の同室にその年の夏休みまで居候させて頂きました。この下宿既に立命館大学の学生七名が入居していて、私が入って八名となり、あと一名で野球チームが出来ると言いながらよく近くの洛星高校のグラウンドで野球をやりました。高校を卒業したばかりの私には周囲に友達も無く心細かったことが思い出されます。当時の世の中は安保闘争の真只中、学内で誘われてデモ行進に参加して河原町通り(市電通り)を一度だけ行進したこと覚えていて。中学、高校とクラブ活動で軟式庭球(現ソフトテニス)をやっておりましたので、安易に軟式庭球部に入部しましたが、一般教養の時は宜しいのですが、専門教科になると実験があります。実験を欠席したのでは単位が取れませんので、悩んだ挙句退部せざるを得ませんでした。専門教科では実験で使った機材にスライド抵抗器がありました。日満高等工料の名称が入っており、機材の古さに驚きました。草津の学舎を見学した折、その機材を再び目にする事になり古い物を大事に使用していることがよくわかりました。一般に電気供給(発電、送電、変電、配電)に係わる分野を強電、通信分野を弱電と言っておりますが、普通高校出身の私には何と云っても小堀先生のターマンの無線工学(外書)は難解で通信系の学科が嫌いになった要因のような気がします。従って強電に向かって勉強の的を絞って、卒論をリーケツジトランス(高調波)を選択し、故山本茂先生、浦山先生のご指導を頂きました。更に四年生の夏休みに郷里の近くにある東北電力(株)の八久和発電所(水力、ダム式、最大出力五〇、〇〇〇kw)での二十日間の卒業実習をいたしました。私の就職先が東北電力(株)です。北で育った自分には京都弁は他の人が話すのを聞いては理解できても自分が話すのは大変難しかったです。

京都の町が好きで立命館大学を選びましたので、いろんな経験をしてみようと好奇心にも駆られて下宿を四年間に三箇所(等持院、衣笠、鳴滝)変わりました。これも学生時代の京都での思い出であります。学業に支障になるようなアルバイトはしませんでした。が、中学生への家庭教師、太秦の東映撮影所での時代劇のエキストラのアルバイトを何度かやらせて頂き

ました。これは他の地域では出来ない思い出です。  
②、社会人として  
東北電力(株)に入社し、初任地は月の沢発電所(既に廃止、水力、自流水式ペルトン水車、最大出力三、〇〇〇kw)で特徴は落差が約二九〇mの高ヘッド、ケーシングの半分がフロアーに顔を出している横軸ペルトン水車でした。二名の三交代勤務をやりましたが、忘れられないのはランナーから外れたバケットがケーシングを破って飛び出す事故を経験しました。この頃電気事業には合理化の波が到来し総合自動化で無人化の工事も経験し、山岳の厳しい場所でしたが有意義な二年間でした。無人化が終わると親発電所の立谷沢川第一発電所(水力、自流水式、フラシンス水車、最大出力二、二五〇〇kw)に更に二年勤務し、発電所の運転を合わせて四年携わり、さらに保守、運用、管理の業務を保守所、支店で経験し、需要、設備の計画業務の需要想定を本店企画室で、特に設備計画の元になる需要想定はオイルショックの時の料金改定では、暫らく振りの料金改定でしたので経験者が少なく取り纏めた大変時間がかかり厳しい作業になったことを思い出します。

時代も進み事業拡大の課題がクローズアップし、電力会社が地域の有力企業と連携し通信事業への参入、具体的にはポケベル会社を設立しました。その事業への出向、更には携帯電話の前進であるPHS事業の立ち上げにも参加させて頂きました。ご承知のようにポケベル・PHS事業とも携帯電話の目まぐるしい発展の波には勝てず、どちらも既に事業廃止となっております。電力会社の関連事業で最後に係わったのは需要家の電気の計量をやる電力量計(メーター)の製造、修理をやる関連事業の東北計器工業(株)での仕事、その間原動力の広報、人材育成での採用業務、ニューヨークに事務所開設の仕事や熱供給事業にも携わらせて頂き充実の日々でありました。これも電気の基礎である電気工学を立命館大学で故山本茂先生、浦山先生のご指導を頂いたお陰であります。特に浦山先生には学生の採用の仕事で大変お世話になり有難う御座いました。

### ③、余生を充実して

六十四歳で仕事の一切を終了しましたが、電力会社の電友会(会社のOBで組織)の仲間との交流、ソフトテニス仲間とのプレーでの交流、趣味の金魚のランチュウ飼育仲間との交流、高校の同窓生との交流等年々広がっております。全日本大学女子駅伝が五年ほど前に大阪から仙台に開催場所を移し立命館大学がいきなり三連覇したこともあって地元の校友会(自分も参加)も応援に熱が入っております。昨年は同じ京都の仏教大学が優勝し連覇はなりませんでしたが、今年こそ意気込みる所では無いでしょうか、数ある自分を取り巻く活動の中でもランチュウ飼育は相手が魚だけに自分の腕次第です。立派に育った時には満足感に満たされます。歳と共に先細りてなく余生に夢を持って日々過したいものです。

# 立命館大学在職中の思い出

## 井上和夫

(昭和三十三年卒)

私は毎週一日、びわこ・くさつキャンパスで前期は電気電子工学科三回生の「制御工学」を、後期は電気電子工学科一回生と電子情報デザイン学科二回生に「微分方程式」の講義を担当しています。

立命館大学で初めて教壇に立ったのが三十歳の時、今年で四十五年になります。私は一九五八年の立命館大学卒業ですので、五十二年後輩を正規の授業で教えていることになり、驚くと共に、その幸せをかみしめています。

私の現職時代は大学院学生の研究指導が中心で、学部の私の専門領域の講義の準備はあまりしなかったです。現在は準備の時間が十分あり、例題の精選、レジュメの準備などもでき、特に、本年度は私の最終講義年度でもあり、ティーチング・アシスタント(TA)をつけて頂きました。

私は四十年前に二年間、カリフォルニア大学バークレー校に立命館大学より海外研修員として派遣させて頂き、客員研究員ではありましたが大学院のいくつかの講義や、

ゼミにも参加いたしました。バークレー校は一年を四期に分けるクォーター制で、秋・冬・春そして夏休みです。各学期では一つの科目が四単位であれば、週に三回の授業、このうち一回がTA担当の演習でした。

これを参考に、本年度の私の講義は、毎年実施しているレポート提出以外に毎週、授業時間後半1/4程度を小テストあるいは演習に使っています。授業ではこれまでのように大学院レベルの内容を時々話すことはできなくなりましたが、受講者全員の平均レベルはかなり上がり、期末テストの結果を見るのが楽しみです。

現職時代、私の研究室には毎年大学院学生が多数いました。理工学部の衣笠キャンパス時代は大学院への進学者がまだ少なく、博士課程(後期課程)には専攻内で毎年、一・二名の進学者しかいませんでしたが、私の研究室には毎年複数の博士課程の学生が在籍していました。研究室では私が大学院学生の研究指導をし、学部学生の

卒業研究はそれぞれの研究グループのリーダーである大学院学生が見るといふシステムでやっています。在職中に十九名の博士の学位取得者を社会に送り出しました。その中には国立大学の大学院修士課程を経て私の研究室に来られた博士課程学生が三人います。修士課程修了者も含めて、私の研究室出身者で国・公・私立大学の教授・准教授をされておられる方を数えれば、立命館大学の四名を含め十八名います。

私が在職中、最も強いインパクトを受けたことは大学紛争です。一九七〇年、私は理工学部学生主事をしていましたが、学生部長や他学部学生主事と共に奔走していました。当時、京都御所東側の広小路学舎はいくつかの建物が封鎖され荒れていました。衣笠キャンパスでは電気工学科の建物のみが封鎖されましたが、一日で解除することができました。

当時、学生寮はすべて全共闘系の学生により封鎖されていました。大学は裁判所の許可を得て明け渡しの強制執行を行いました。私は経営学部の学生主事と当時学生課職員であった川本前理事長と十名ほどの執行人とで早朝に百万遍学生寮に行き、占拠学生に説明し建物を封印しました。川本前理

事長は学生によく知られていたように、軽傷を受けました。私も負傷したことがあります。広小路学舎の学生部で学生主事会議をしている時、正門前で二つの学生集団が衝突しそうになり、会議を中断して学生課長と様子を窺っていると、塀の外から投石があり、その一つが私の頭に当たり、三針縫う怪我をしたことがあります。

私は在職中、国際会議も含めて国際交流にも努めました。立命館大学と交流協定を結んでいる中国天津の南開大学には六回訪問しました。

ベートーベンの第九交響曲の合唱の作詩者である哲学者・詩人のフリードリッヒ・シラーの名を冠した大学と立命館大学理工学部(電気工学科)は二十五年ほど前に交流協定を結び、主として苜蓿教授が研究交流をされていました。私も一九八六年にミュンヘンでの自動制御の国際会議の折、ドイツのワイマール近郊のイエーナにあるフリードリッヒ・シラー大学を十日間ほど訪問しました。イエーナにはレンズで世界的に有名なカールツアイスの工場があり、世界で最初にプラネタリウムを製作した工場です。戦前、東京と大阪に設置されていましたが、東京のものは戦災で消失し、大阪・四

ツ橋の電気科学館のものが残りました。私は中学生のころ、戦後の焼け跡に残る電気科学館に毎週のごとく通ったものです。

また、私は在職中、体育会硬式庭球部の部長を二十五年間務め、定年退職の時に電気電子工学科の高山教授にバトンタッチいたしました。私が部長の頃、立命館大学は関西学生連盟の三部校で(各部四校制)、京大・神大と競り合ったものです。スポーツ特別入試制度が始まり、現在は一部校ですが(各部六校制)、夏のリーグ戦には今も応援に行っています。

私は定年退職後、吹田市民合唱団に入り、コーラスを始めました。指揮者は十五年前に立命館大学混声合唱団メディックスを指導され、現在は関西大学混声合唱団を指導されておられる方です。本年一月には吹田市文化会館で定期演奏会があり、定員一、三〇〇人の大ホールを満席にいたしました。コーラスのメンバーは女声五十五名、男声二十五名でモーツアルトの八短調ミサ、オペラの合唱曲、ジブリのメドレーを歌いました。

その他、家庭菜園とか、科学遊びとか、九条の会だとかで地域の方々と交流し、元気を頂いています。

## 本会活動の新展開について

立命電友会会長 南 能寿

日頃は、立命電友会の活動に対しまして、深いご理解と様々なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本会は、会員皆様方の弛まぬご尽力に支えられながら、来る11月1日には1992年設立以来18年の時を経ようとしております。本会会員は、私立電気工学講習所（1913（大正2）年の設立）の初代卒業生（1915年（大正4年））輩出以後、幾多の変遷を経て、2010（平成22）年3月までの97年間に、その総数が12,243名に至っております。

本会役員会は、1）本会会則第5条（目的）「本会は会員相互の親睦を計り、相互の社会的ネットワークを構築し、あわせて立命館学園と科学技術の発展に寄与することを目的とする。」の更なる推進、2）財政構造の改善、3）社会への情報ツールの浸透、などを鑑み、昨年度よりいくつかの作業グループ（事業、財務、広報）を設けて、本会活動の新たな展開について検討を重ねてまいりました。昨年12月には会員全員に対しまして「立命電友会の新展開」と称するアンケートも実施させていただきました。そして、これらの検討内容とアンケートデータをもとに定例役員会、臨時役員会において真摯な議論を重ね、下記のような事業改編、新規事業による新展開を進めてゆくこととなりましたので、お知らせ申し上げます。

### 1) 組織の実効性を高めるための委員会の設置

立命電友会の事業、財務、広報に関する展開の機動性、実効性を高めるために、役員会のもとに小人数構成の「事業委員会」、「財務委員会」、「広報委員会」を設置しました。

### 2) ホームページの改編

本会ホームページの構成を抜本的に改編し、本会の紹介、会報の閲覧、本会の活動状況のお知らせ、会員の紹介、事務局への問い合わせ、などについてご閲覧・ご活用いただけるようになりました。是非ともご一覧ください。

(URL) <http://ritsumei-denyukai.com/>

会報が掲載されましたら、メールにてお知らせいたしますので、皆様のメールアドレス（卒年、ご氏名とともに）を事務局までお知らせください。

### 3) 会報の郵送

従来、会報は年2回発行され、その内1回は会員すべての皆様方に郵送しておりましたが、ホームページへの会報掲載にともない、来年度より立命電友会終身会費納入者に限り年1回会報を郵送することといたしました。また、年間の発行回数や会報の内容については、今後、広報委員会・事業委員会にて検討してまいります。

### 4) 広告掲載事業の展開

本会ホームページ改編に伴いトップページにバナー広告を掲載し、その掲載費をホームページ運用費用に充てることといたしました。バナー広告掲載は随時募集いたしておりますので、お気軽に応募書類を事務局までご請求ください。

### 5) 「募金および寄附金」の受け入れ

本会の活動目的に深いご理解をいただきご賛同いただけます皆様方に対し、「募金および寄附金」の受け入れを実施することといたしました。ご案内書類を事務局までご請求ください。

### 6) 学科開催のキャリアデザインセミナーへの講師派遣

卒業生の母体である学科主催の「キャリアデザインセミナー」に対して、依頼により講師派遣をすることといたしました。社会における技術者活動の紹介を通して、学生皆さんに「大学の学びと進路形成」について喚起の機会を提供いたします。

### 7) 「立命電友会入会式」の実施

学部学生の卒業と修士学生の修了を祝福するとともに、立命電友会会員としての自覚を喚起するために、卒業式当日に当該学生を対象に「立命電友会入会式」を事業として実施することにいたしました。

役員会は、本会の目的（第5条）を果たすべく尽力してゆく所存です。今後とも会員皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上

事務局連絡先：〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1（宮林：月・木）

立命館大学理工学部電子システム系事務室内

電話：077-561-2662、FAX：077-561-2663

電子メール：kma98019@se.ritsumei.ac.jp

# 退職のご挨拶

津田川 勝  
(昭和四十四年卒)

六十五歳。六十五歳になってしまった。若い頃、六十歳を越えると夢も好奇心もなくなってしまうものだと思込んでいました。ところが自分がその歳になつてしまつと中々どうしてまだまだです。立命館在職中の思い出は諸先生方と内容が重複する部分が沢山あります。そこで個人の電気工学との係わり合いを書きます。

私は、昭和二十年三月に七人兄弟の六番目に京都で生まれました。生まれたのは東京大空襲の翌日の未明でした。昭和二十六年頃、大阪城公園でテレビ放送の公開受信実験があり、当時のラジオ京都に一級無線技士として勤務していた長兄に連れられ、初めてテレビというものを見ました。勿論受像機は白黒で、画面も五インチ程度の小さいものでした。「蟻とキリギリス」というアニメを見たことを今でも覚えています。

小学五、六年生で半田付けを覚え、鉱石ラジオを作つて友達と感度を競い合つたりして楽しんでいました。中学時代にアマチュア無線の存在を知り、自分でも交信がしたくなって、五球スーパの局発を改造して簡単な送信機を作りました。それを使って初めて交信で

きたときの興奮は未だに忘れることが出来ません。そうこうしている内に電波管理局の役人さんが家にやつてきて、未成年であったこともあって父が嚴重に注意されました。その後、正式にアマチュア無線技士の免許を取得しました。

朱雀高校から立命館大学、京都工芸繊維大学大学院と進み、大学院では電気工学専攻の堤捨男教授の研究室に入りました。先生との相性もよく、研究も興味深く若かつたせいもあり、夕食を忘れて深夜まで研究に没頭したものです。その頃のアルバイトは京都市所有の廢墟ビルの夜警で、私一人で宿直室と称する和室に泊まるというものでした。泊まるだけの仕事なので楽だし勉強も出来るので良いバイトでした。そのビルは屋上から大文字の五山が全て見える場所であり、大学院の仲間と酒を酌み交わしながら大文字焼きを観賞した楽しい思い出があります。

大学院を修了して、昭和四十七年に立命館大学理工学部電気工学科の助手に就任しました。それ以来三十八年間沢山の諸先生や沢山の学生達との本場に良い出会いがありました。研究も空間フィルタ一筋で、拙い英語でありましたが、

海外論文の発表も数回ありました。身体も弱かった私が大病もなく、無事に大過なく定年を迎えられたことに感謝しています。

理工学部のBKCへの移転を機に草津市に移り住んできました。

# コンピュータと共に歩んだ四十年

寺井 秀一

本年三月末日をもって電子情報デザイン学科を定年退職いたしました。一九九四年四月にBKCのオープンと同時に着任して以来、早いもので、十六年の年月が過ぎました。その間ずっとBKCの拡充・発展とともに歩んできました。当時のキャンパスの建物といえば、記憶の範囲ではイーストウイング、コア、ウエストウイング、メディアセンター、生協のあるユニオンスクエア、講義棟はフォレストとプリズムそして、実験棟ぐらいいました。今のキャンパスの過密状態をみると、隔世の感がします。南草津駅はまだなくて、バスは草津駅からでいていました。朝の国道一号线の渋滞は激しく、そのため一限目の授業の開始は九時三十分でした。

私の研究室の看板は「計算機工学研究室」で、コンピュータ環境を整備することが急務でした。Windowsはまだ3.1の時代で使い勝手が悪く、GUIに優れた

マッキントッシュを購入することにしましたが、本体とCRTディスプレイそれにレーザプリンタをあわせると一式で一〇〇万円、三セット購入したらその年の実験実習費はなくなつてしまいました。今ですと一〇〇万円あればもっとコンパクトで性能の良いものが十台は買えます。インターネットはまだ生まれだての状態、電子メールは九・六kbpsのモデムで電話回線を用いていました。現在の情報システムの隆盛をみたとき、この間のエレクトロニクス技術、情報技術の進歩にただただおどろくばかりです。

四十年前、大学院修士時代にコンピュータと出会って以来、企業(日立製作所)と大学(立命館)を通してずっとコンピュータとともに研究・開発そして研究の道を歩んできました。当時の最新鋭の大型コンピュータのクロックスピードは十八MHz、今のパソコンの約二〇〇分の一の性能でした。

新聞の滋賀版に立命館大学の躍進や学生達の活躍の様子がよく載っています。誇らしい気持ちで読んでいます。立命電友会がいままでも発展していけますように祈念しております。

(CPUタイムで当時三時間かかっていた処理が今では一分足らずで終わる。)プログラムは紙テープにパンチし、糊とはさみで紙テープをつきはぎしてプログラムの修正をしていました。アセンブラ語でプログラムを書き、時には手でメモリー内の命令を書き換えてシングルステップで実行させ、レジスタの内容を確認してプログラムのデバッグを行ったものです。コンソールパネルの前に座り込んで、時間のたつのも忘れてコンピュータを操作したことを懐かしく思い出します。こうして知らず知らずの間にコンピュータの仕組みが身についてゆきました。今ではブラックボックス化が進み、コンピュータの中身が見えなくなっていることに一抹の寂しさを感じます。現在、我々が日用品感覚で使っているコンピュータ、「パソコン」がここまで劇的に進歩したのは、まさに半導体・LSIを核とするエレクトロニクス技術のたゆみなき発展のたまものです。ユーザとして開発設計者の一員として両方の立場からコンピュータの発展とともに過ごしてこられたことを幸せに思います。先輩、同僚、若い仕事仲間たち、学生の皆様のお力でごままでやってくることができました。人と人のつながりの尊さを実感しています。最後に、電子システム系のますますのご発展を祈念し、これまでに賜りました皆様のご支援、ご厚情にお礼を申し上げます。退職のご挨拶といたします。ありがとうございます。

新任のご挨拶

電気電子工学科  
教授 馬杉 正男

二〇一〇年四月より、電気電子工学科に教授として着任致しました。

私は、日本電信電話株式会社に二十一年間勤務し、企業の研究者の立場から新たな道を歩むことになりました。この間、主として、環境電磁工学および情報ネットワーク工学領域の研究開発（より具体的に、通信システムの障害要因となる電磁ノイズの計測処理・対策法、通信システムの品質評価法、通信トラヒックの非線形解析などのテーマ）に従事してきました。今後は、現在問題となっている地球温暖化に関連する自然現象（雷放電、他）の計測処理や電磁界の生体システム効果に関するテーマに重点をおいて、新たな可能性を追求していくつもりです。ちなみに、前職では、事業部門でのサービス企画・営業など技術系以外の業務にも従事しており、これまでに培ってきた私の職場体験を第二の人生でも活かしたいと考えています。

さて、大学教員職へ転職についてですが、これは私にとって人生をかけた大きな賭けといえるものです。私自身、今後の日本社会、あるいは、世界動向には、かなりの危機感をいだいています。現在、地球環境、医療、教育、国家財政など、あらゆる分野において問題

が深刻化しつつあり、社会全般において閉塞感が蔓延しています。特にここ数年、日本社会の活力が失われる光景をみるにつけ、自分

のアップロードで社会に貢献することはできないかという思いが募ってきました。そうして、新たな研究テーマを開拓していくと同時に、若い人や社会に対して、自分なりのメッセージを発信できる立場として、大学という道に進む決意をした次第です。

はじめての大学教員職ということもあり、未だ不慣れな面はありますが、現在、非常に充実した日々を送っています。今後は、立命館大学という場において、微力ながら研究教育活動にまい進し、これまで私が得た知見を社会にフィードバックしていきたいと考えています。最後となりますが、今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

電子情報デザイン学科  
教授 富山 宏之

二〇一〇年四月に電子情報デザイン学科に着任致しました。

私がコンピュータに興味を持ったのは、中学生の頃だったと思います。当時は家庭用パソコンの黎明期で、私もパソコンが欲しかったのですが高くて買えず、代わりにポケコンを買って遊んでいました。「ポケコン」って懐かしい響きですね。今風に言えばPDAでしょうか。最初は雑誌に掲載

されているゲームのプログラムを自分で打ち込んで遊んでいたのですが、やがて自分でプログラムを作るようになり、対戦型の野球ゲームを作ったり、高校に入ってから、その時に覚えたマージャンのゲームを作ったりしました。しかし、なにぶんメモリが小さくて「あがり」の判定ができず、延々と「ツモ」と「ステ」を繰り返して繰り返すだけのゲームでした。当時は、プログラムを作っていたとはいえ、特に熱中していた訳ではなく、単なる暇潰しに過ぎなかった気がします。まして、将来、電子や情報の分野に進もうとは思っていませんでした。でも無意識には思っていたかも？

転機は、九州大学在籍中の、学部一〜二年のときでした。NHKの「電子立国日本の自叙伝」です。この番組についてはここであらためて説明する必要はないと思えます。中でも特に心惹かれたのは、番組後半の電卓戦争とマイクロプロセッサ発明のストーリーでした。さらに、当時受講していた安浦寛人先生による論理回路の講義が面白く、四年生になると迷わず（かな？）安浦先生の研究室を志願しました。安浦先生だけでなく、助教や助手の先生方、先輩、同期、後輩にも恵まれ、研究室での生活を博士後期課程まで楽しく過ごすことができました。

学位取得後は、カリフォルニア大学アーバイン校の客員研究員を二年、(財)九州システム情報技術研究所（現在の九州先端科学技術研

究所）の研究員を二年務めた後、名古屋大学・大学院情報科学研究科に講師/助教/准教授として合計七年間勤務しました。紙面の都合上とてもこの場で書くことができませんが、それぞれの職場で非常に貴重な出会いと経験を得ることができました。

そして今、立命館大学の一員になることができたことをとても誇りに感じています。立命館大学の発展のため、そして、日本の科学技術の発展のため、全力で教育と研究にあたる所存です。皆様からのご支援ご鞭撻を賜りたく、お願い申し上げます。

電子情報デザイン学科  
助教 熊木 武志

二〇一〇年四月より、理工学部電子情報デザイン学科に助教として着任致しました。

この原稿を執筆している時点で、立命館大学に勤務後二ヶ月あまりが経過しております。なかなか進むことがない自らの研究も気になる一方、それ以上に学生に対する講義の内容と学生を飽きさせないための話題作りを考えを巡らす毎日です。

私は、いわゆる幼いころからコンピュータに興味があり、電気電子工学科に入学し、大学院を経て研究職に……というキャリアでは全くございません。むしろ紆余曲折を経て教壇に立っているという変わり種であります。高校卒業後は一浪を経て、変わった体験がしたいという理由で防衛大学校に入

校、卒業後は航空自衛隊に任官、日本を転々とし航空機に携わる一方、標高一二〇〇mの山頂にある基地に勤務したこともあり、自衛隊勤務時に修士課程への公募を知ったのをきっかけとして、徐々に研究の世界に足を踏み入れた次第です。当時二十五歳でした。防衛大学校理工学研究科コンピュータ工学研究室に所属、本格的にLSIアーキテクチャやその応用に関して研究を始めました。卒業後は再度部隊に戻り、技術関連の業務を行っていましたが、元来の探究心の強さがここに至り表面化し、広島大学ナノデバイス・システム研究センターへ博士課程後期学生として所属しました。二十九歳、妻子持ちであったため、退職し学生になることは、それなりに勇気が必要としましたが、挑戦せずに後悔はしたくないと思い、なんとか博士を取得、その後は研究員として勤務し、公募を経て現在立命館大学に職を得ることができた次第です。

以上を振り返ってみると、私の根本にあるのは、努力と行動力ではないかと思えます。就職氷河期と言われて久しい昨今、自らの進路について真剣に悩んでいる学生が多いうることに気付かされます。これまでの経験を活かして研究指導のみならず、様々な面から学生をバックアップすることが教員としての務めと考えております。

最後になりましたが、皆様、今後ともご指導、ご鞭撻何卒よろしくお願い申し上げます。

二〇〇九(平成二十一)年度 電子システム系卒業生進学・就職状況

二〇〇九年三月に修了の大学院生、及び卒業の学部学生の進学・就職状況は、表Ⅰのようになりました。今年、二〇〇八年九月に発生した、いわゆるリーマン・ショックによる金融不安後の最初の進学・就職状況ということになります。就職氷河期の再来という緊張感のもとで、学生個々人も、従来とは違った厳しさが待ち構えていることを、十分に自覚した上での就職活動であったと思います。

大学院博士前期課程修了者一七七名のうち、後期課程に進学した学生は、例年通り少なく、二名でした。就職決定者は一六名、活動中(及びその他)の学生は九名です。学部卒業生三〇六名のうち、大学院博士前期課程に進学する学生は、例年通り、おおよそ半分の一六二名でした。就職決定者は一三〇名、活動中(及びその他)の学生は二四名です。

表Ⅱに、就職先の一覧を示します。「電気・電子・機械関連」への就職数と割合は、二〇〇七年度、二〇〇八年度と比べ二割程度減少しています。「その他」に分類される業種への就職数が増え、学生が業種の幅を広げていることが読み取れます。今年度の特徴は、自動車、及び自動車関連の企業、さらに電機メーカーへの就職が際立って厳しかったことです。それに対して、電力、ガス、鉄道等のインフラ関連への就職は健闘しました。学校推薦による内定率割合は、博士前期課程修了者で約五〇%、学部卒業生で二〇%強であり、残りが自由応募による内定者となります。

企業の採用担当の方とお話をしていますと、学校の成績もさることながら、コミュニケーション能力の重要性を力説される方が多いようでした。各企業にはそれぞれの個性があり、また学生

にもそれぞれの経験、能力、関心の方向があります。両者がぴったりマッチングした時、きっと良い結果がもたらされるでしょう。このためにも、求人情報の洪水に流されるのではなく、学生が、自分自身を良く見直し、志望方向と動機を明確にし、それに基づいて企業を十分に研究していくくつりが必要ではないかと思えます。

景気は緩やかな回復傾向にあるとはいえ、先般のユーロ不安問題等を抱え、先が良く見えない状況にあります。企業側もより一層の厳選採用を行っており、今後も二〇〇九年度以上の厳しい就職状況になるかと思えます。立命館大学においては、キャリアオフィス、学部の就職委員、研究室指導教員、OB・OGが相互に密に連携をとりながら、学生の就職活動のサポートを行っています。今後とも、より一層のご支援・ご指導をお願い申し上げます。(就職委員 服藤憲司)

Ⅰ. 卒業生・進学者・就職者一覧

2010年3月24日現在

Table with 5 columns: 卒業生, 進学者, 就職者, 活動中, その他. Rows include various departments like 大学院(電気電子工学科) and a total row.

Ⅱ. 就職先一覧

(大学院・修了生の就職先も含む)(順不同敬称略)

Table with 2 columns: 業種, 企業名. Lists various industries like 電気・電子機械, 電力・ガス, 自動車, etc., with associated company names and counts.

同窓会だより

辻村・前田、浦山研究室  
定例合同同窓会の報告



二〇〇九年十二月五日。年末の慌ただしい時期にも関わらず参加いただいた総勢約四十名の同窓生のもと、ハトヤ瑞鳳閣にて合同後五回目の合同同窓会が行われました。今回の合同同窓会は少し趣向が変わり、宴の前に講演会を設けることになりました。その栄えある第一回目を担当したのは、トヨタ自動車(株)に勤務する楠和弘さん(辻村・前田研究室九十二年卒)。(九十二年院卒)楠さんはベルギーのブリュッセルに長期滞在していた経験があり、この経験を踏まえて技術屋の視点からご自身の仕事に対する熱い思いを語っていただきました。講演後は、辻村先生や前田先生、浦山先生を囲っての懇親会。いつもはローギヤから緩やかに盛り上がる懇親会ですが、今回は楠さんの熱意が伝わったせいか、単にのどが渇いていたせいか、乾杯直後から盛り上がり一気にトッブスピードに達し、終始、賑やかな空気に包まれました。みなさん、グラスを片手に思い思いのところへ移動して思い思いに語り合い、そして、一本締めの際にはすっかり出まわって、一本締めもちらほらおられました。

最後は前田先生の出番です。いつものように前田先生の指示に従い右へ左へ移動しつつ整列し、全員で記念写真を撮りました。次回是一年半後の二〇一一年六月に行われる予定です。同期をお誘いの上、多くの諸先輩方のご参加をお待ちしております。  
幹事 華山浩伸(九十六年卒)



第三回 南会長【活動報告】

- 十四、平成二十一年八月二十九日(土) 午前十時から、BKCC内電子システム系二階会議室でワーキンググループ3 (WG3) 「財務関連」会議 午後一時よりワーキンググループ2 (WG2) 「広報関連」会議出席
- 十五、平成二十一年九月五日(土) 午前十時から、BKCC内電子システム系二階会議室でワーキンググループ1 (WG1) 「事業関連」会議出席
- 十六、平成二十一年九月二十七日(日) 名古屋国際会議場にて全国校友大会、理工系同窓会連絡協議会に出席
- 十七、平成二十一年十月三日(土) 午後二時から、BKCC内電子システム系二階会議室でWG3会議出席
- 十八、平成二十一年十月十八日(日) 午後一時三十分から、京都タワーホテル七階黄鶴の間にて電友会臨時役員会に出席
- 十九、平成二十一年十月二十四日(土) 午前十時から、BKCC内電子システム系二階会議室でWG1会議出席
- 二十、平成二十一年十一月二十七日(金) 午前十時から、BKCC内ウエ

ストウイング二階ラウンジ電友会幹部役員会議に出席  
二十一、平成二十一年十一月二十八日(土) 午後一時から、BKCC内電子システム系二階会議室でWG2会議出席  
二十二、平成二十一年十一月五日(土) 午後六時から、京都駅西側ハトヤ瑞鳳閣にて辻村・前田、浦山合同卒研同窓会出席  
二十三、平成二十一年十二月二十二日(火) 電友会ホームページバナー広告依頼の為、ローム(株)松井部長、ヒラキ電計機(株)平井社長、(株)宮木電機製作所河原社長等と面談、他三十社程に電話で依頼勧誘活動  
二十四、平成二十二年一月二十三日(土) 午後一時から、BKCC内電子システム系二階会議室で電友会幹部役員会議とWG2の合同会議に出席  
二十五、平成二十二年二月十七日(土) 午後一時三十分から、京都タワーホテル六階アテナの間にて電友会臨時役員会に出席  
二十六、平成二十二年三月二十二日(月) 午後五時三十分から立命館大学BKCC内ローム記念館三階レセプションホールに於いて、電子システム系卒業・修了記念祝賀会、立命電友会入会式に出席  
二十七、平成二十二年四月一日(木) 午後二時から、京セラドーム大阪に於いて、立命館大学・大学院入学式に出席  
二十八、平成二十二年五月二十二日(土) 午後一時から、京都タワーホテル七階緑溪の間にて電友会役員会に出席  
二十九、平成二十二年六月六日(日) 立命館大学ホームカミングデーに出席

学系便り

平成二十二年度  
電子システム系の主な役職者

- 電気電子工学科 小松 康廣  
学科長 服藤 憲司  
就職委員 高倉 秀行  
電子情報デザイン学科 森本 朗裕  
就職委員 山崎 隆国  
学科長 道関 隆国  
電子情報デザイン学科 山崎 勝弘
- 【退職】 津田川 勝  
平成二十二年三月三十一日、定年退職  
寺井 秀一  
平成二十二年三月三十一日、定年退職
- 【新任】 馬杉 正男  
平成二十二年四月一日、電気電子工学科教授に就任  
富山 宏之  
平成二十二年四月一日、電子情報デザイン学科教授に就任  
熊木 武志  
平成二十二年四月一日、電子情報デザイン学科助教に就任

訃報

卒年	氏名	訃告
昭4年	山下庄次郎	平成20年10月21日
昭10年	小島 辰雄	平成20年6月3日
昭13年	細川 潤一	平成20年6月3日
昭15年	杉嶋 三郎	平成18年3月
昭18年	堀江 義清	3年前
昭19年	坂元 亮	平成21年11月10日
昭20年	前田 彌一	平成21年6月25日
昭20年	佐藤 善雄	平成21年10月14日
昭22年	井上 卓也	平成21年10月14日

事務局便り

立命電友会会報三十五号の発行にあたり、ご寄稿頂いた皆様に対し、心よりお礼申し上げます。お知らせの通り、本年の四月よりホームページがリニューアル致しました。投稿欄もございますので、ぜひ活用して頂きたいと思っております。(宮林)

立命電友会連絡先  
〒五二五-八五七七  
滋賀県草津市野路東一-一  
立命館大学理工学部電子システム系内  
立命電友会事務局 高山 茂  
電話 〇七七(五六)二六六二  
FAX 〇七七(五六)二六六三  
E-mail: kma9801@se.ritsumei.ac.jp  
http://ritsuneidenyukai.com/  
(会報の題字は久保之俊氏)